

知の新しい活用法を求めて ～実践と理論の連携～

日 時：2011 年 1 月 19 日（水） 13:00-16:45
会 場：日本教育会館 707 号室（千代田区一ツ橋 2-6-2 Tel:03-3230-2831）
半蔵門線 神保町駅（A1 出口）徒歩 3 分
三田線 神保町駅（A8 出口）徒歩 5 分
東西線 竹橋駅（北の丸公園側出口）徒歩 5 分
東西線 九段下駅（6 番出口）徒歩 7 分
JR 総武線 水道橋駅（西口出口）徒歩 15 分

主 催：横幹技術協議会、横幹連合

参 加 費：横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料。
当日資料代：1,000 円（希望者のみ 費用は当日申し受けます）

【上記以外】一般 5,000 円（資料代込）

参加申込：【事前登録】オンライン申込 http://www.trasti.jp/cgi-bin/forum_29_1.cgi?step=1
又は、下記の参加申込書にご記入のうえ、fax、電子メールにてお申し込みください。
（氏名、所属、連絡先 Email、TEL 等をご明記ください。）

【当日申込】当日直接、受付へお越しください。

（定員に達した場合、HP にて受付終了をお知らせします）

【企画趣旨】

異分野・異業種で連携が進まない理由の一つに、それぞれの専門用語の体系の違い、用語の解釈の違い、事物の表現方法の違いなどがあるように見える。オントロジー工学は、このような問題にとりくむ一つの方法論である。また、知識を体系的に集積、整理、利用することで全く新しい社会的・産業的な活動が創成される。実際、オントロジー、生活機能構成学など既存の科学技術分野にまたがって知識を活用するあたらしい動きがある。このような事例に活発にかかわっている最先端の研究者の話聞くことは意義が深い。

【プログラム】

		(敬称略)
		総司会：平井 成興(千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 副所長)
13:00-13:05	開会にあたって	桑原 洋(横幹技術協議会 会長)
13:05-13:20	本企画のねらいについて	平井 成興(千葉工業大学)
13:20-14:10	◆ 講演 1 見守るデジタルヒューマン：実践的知識活用の事例	西田 佳史(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター チームリーダー)
14:10-15:00	◆ 講演 2 オントロジー工学：知識の体系的整理と工学的活用への挑戦	溝口 理一郎(大阪大学 教授)
15:00-15:50	◆ 講演 3 生活機能構成学：ロボット活用社会の将来像を求めて	松本 吉央(産業技術総合研究所 サービスロボット研究 グループリーダー)
	(15:50-16:00 休憩)	
16:00-16:40	◆ 総合討論 パネルディスカッション	司会：平井 成興(千葉工業大学) 講師の皆様、舘 暲(慶応義塾大学)
16:40-16:45	閉会にあたって	木村 英紀(横幹連合 会長)

知の新しい活用法を求めて ～実践と理論の連携～

2011 年 1 月 19 日 (水) 13:00-16:45 (日本教育会館)

【講演要旨】

(敬称略)

講演1

「見守るデジタルヒューマン：実践的知識活用の事例」

◆ 西田 佳史 (産業技術総合研究所デジタルヒューマンセンター チームリーダー)

子どもや高齢者の事故、生活習慣病など我々が日々、直面している社会問題の深部には、日常生活という超複雑システムを扱うための科学技術体系と社会体系が未成熟であるという問題がある。本講演では、子どもの傷害予防という具体的な社会問題を取り上げ、日常生活科学に基づく傷害予防技術や、それをイノベーションへと展開するための安全知識循環社会システムの事例を示すことで、科学技術研究と社会実装活動とを切り離さず一体として進める新たな知の構築法を例示する。

講演2

「オントロジー工学：知識の体系的整理と工学的活用への挑戦」

◆ 溝口 理一郎 (大阪大学 教授)

オントロジー工学に基づく技術知識の活用・流通に関する理論と実践を紹介する。技術知識の根幹の一つである設計物の機能構造を domain-neutral に記述する為の機能オントロジーを開発し、それをういた機能構造記述ツール SOFAST を開発し、いくつかの実用の経験を通して、現在商用ツール OntoloGear にまで発展している。これらの経験に基づいて、知識の流通と活用を促進するために必要な要件についても議論する。

講演3

「経生活機能構成学：ロボット活用社会の将来像を求めて」

◆ 松本 吉央 (産業技術総合研究所 グループリーダー)

生活支援ロボットの研究開発は盛んであるが、実際に利用されるに至っているものは皆無である。「ニーズに基づく開発が重要」とはよく言われるがその方法論は具体的になく、またユーザを取り巻く医療、介護、福祉、教育、行政、家族など他の専門家との連携の方法論もないことは大きな問題である。本講演では、人の生活の全体像を示す「生活機能モデル」として WHO で採択された ICF (国際機能分類) について説明し、ICF を共通言語とした様々な専門家との連携、および日常生活を分析し支援をデザインする「生活機能構成学」の考え方について述べる。

<第 29 回横幹技術フォーラム 申込書>

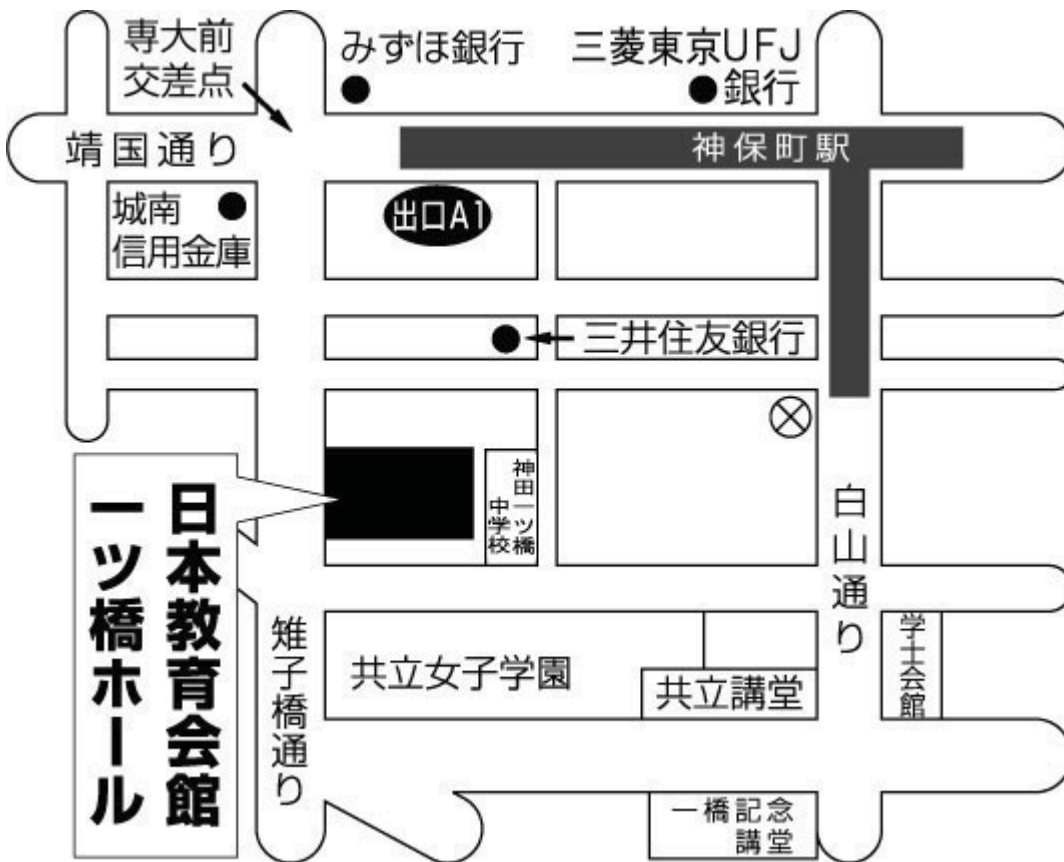
1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

交通案内



東京都千代田区一ツ橋 2 - 6 - 2

道案内専用電話 03 - 3230 - 2833